

# 英国の研究評価における 社会的・経済的インパクト

平成 27年 11月 13日

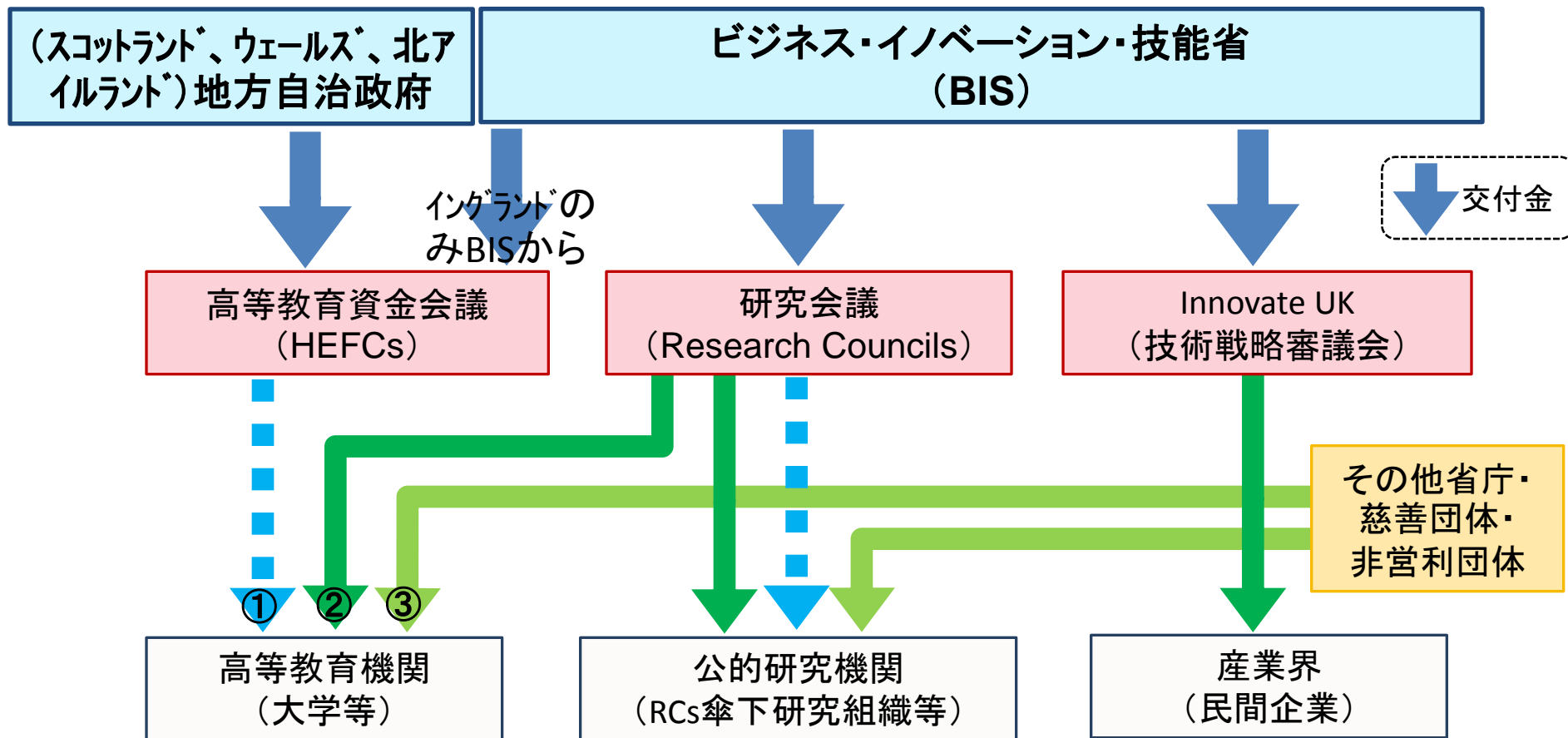
研究開発戦略センター 海外動向ユニット

フェロー 津田憂子



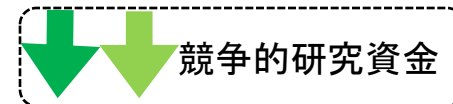
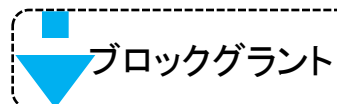
科学技術振興機構

# 英国のファンディング制度



## 【高等教育機関へのデュアル・サポート・システム】

- ① 高等教育資金会議によるブロックグラント
- ② 研究会議による競争的研究資金
- ③ 他省庁や慈善団体による研究資金



# 研究会議 (Research Councils: RCs)

- 研究会議は英国の基礎・応用研究に対する主要な助成機関
- 7つの分野別研究会議と各研究会議が共同で設立したRCUKから構成される
- ファunding機能に加え、★の研究会議は傘下に研究組織を有する

- RCUKは、7つの研究会議の連携組織として機能。
- そのミッションは、他のRCsが最良なかたちで連携するのを支援すること。
- 研究会議横断型プログラムの運営

英国研究会議協議会  
RCUK:  
Research Councils UK

★バイオテクノロジー・  
生物科学研究会議  
(BBSRC)

芸術・人文  
学研究会議  
(AHRC)

★工学・物理  
科学研究会議  
(EPSRC)

★医学研究  
会議  
(MRC)

自然環境  
研究会議  
(NERC)

科学技術  
施設会議  
(STFC)

経済・社会  
研究会議  
(ESRC)

研究会議名	予算(億円) (2015年)
EPSRC	7.9億
MRC	5.8億
STFC	4.0億
BBSRC	3.5億
NERC	2.9億
ESRC	1.5億
AHRC	1.0億

# 研究成果のインパクト

## エクセレンス重視という共通認識

ただし、公正に量るのが難しい、基礎研究軽視につながりかねない等の理由から、研究者の間には、選定基準への「インパクト」導入による効果重視の動きには批判的見方が根強い

- 確立されたピアレビュー・システム ⇒ 透明性の徹底や利益相反の排除
- エクセレンスに向けた積極的な研究努力、「エクセレンスの重視」の政策決定
- 一部の大学や研究者への研究資金の集中は、エクセレンス重視の結果

## 近年は研究成果の社会的・経済的インパクトも重視

- 研究開発費が少ない(日本の約5分の1)現状における効果や効率を重要視
- RCsやHEFCsによる配分額・助成先選定の基準に「研究のインパクト」を含める
  - RCs: グラント申請書内に、期待されるインパクトについての記述欄あり。インパクトについて調査検討および情報公開を行う「Pathways to Impact」イニシアチブが進行中。
  - HEFCs: 新評価制度REF(Research Excellence Framework)における評価基準の20%

# Pathways to Impactとは？

## RCUKによる研究のインパクトに関する声明

- 大学等の関係者との協議の結果まとめられたもの
  - “A clearly thought through and acceptable Pathways to Impact”は、研究プロポーザル及びファンディング条件の不可欠な要素。このPathwaysを考慮しなければ、申請内容がエクセレンスを十分に踏まえていてもファンディングは行われない
  - プロジェクトごとに特定の、一般化されるものではない
  - 柔軟性に富み、あり得べき研究結果を見据えて設定される
- 各RCsは、Pathways to Impact Statementを支持。インパクト指標を独自のものを用いて評価を実施。

# Pathways to Impactのインパクト

## 申請を行う研究者がプロポーザルの中で検討すべき事柄

- 時宜を得たかたちで、研究利用者やステークホルダーを特定し、彼らと積極的な連携を図る
- 研究利用者の置かれた状況やニーズを理解し、どのように研究が彼らのニーズと合致するのかについて検討する
- タイミング、人材、スキル、予算、成果、実現可能性などの研究に関連する様々な要素を企画・管理する
- 研究成果のエンド・ユーザーとの間に既にある連携を研究に取り込む

2015年4月1日以降、RCsの審査委員会で検討される研究プロポーザルすべてに対し、Pathways to Impactの内容が検討されることに

# Pathways to Impactの例

## 政策

- 公共政策およびサービスへの情報インプットの点から、研究者と政府との関係性



## 産業界

- 経済的・社会的インパクトに関して、研究者と産業界との連携の強さ



## ボランティア、チャリティ

- チャリティ、ボランティア組織などの第3セクターと研究者との協働



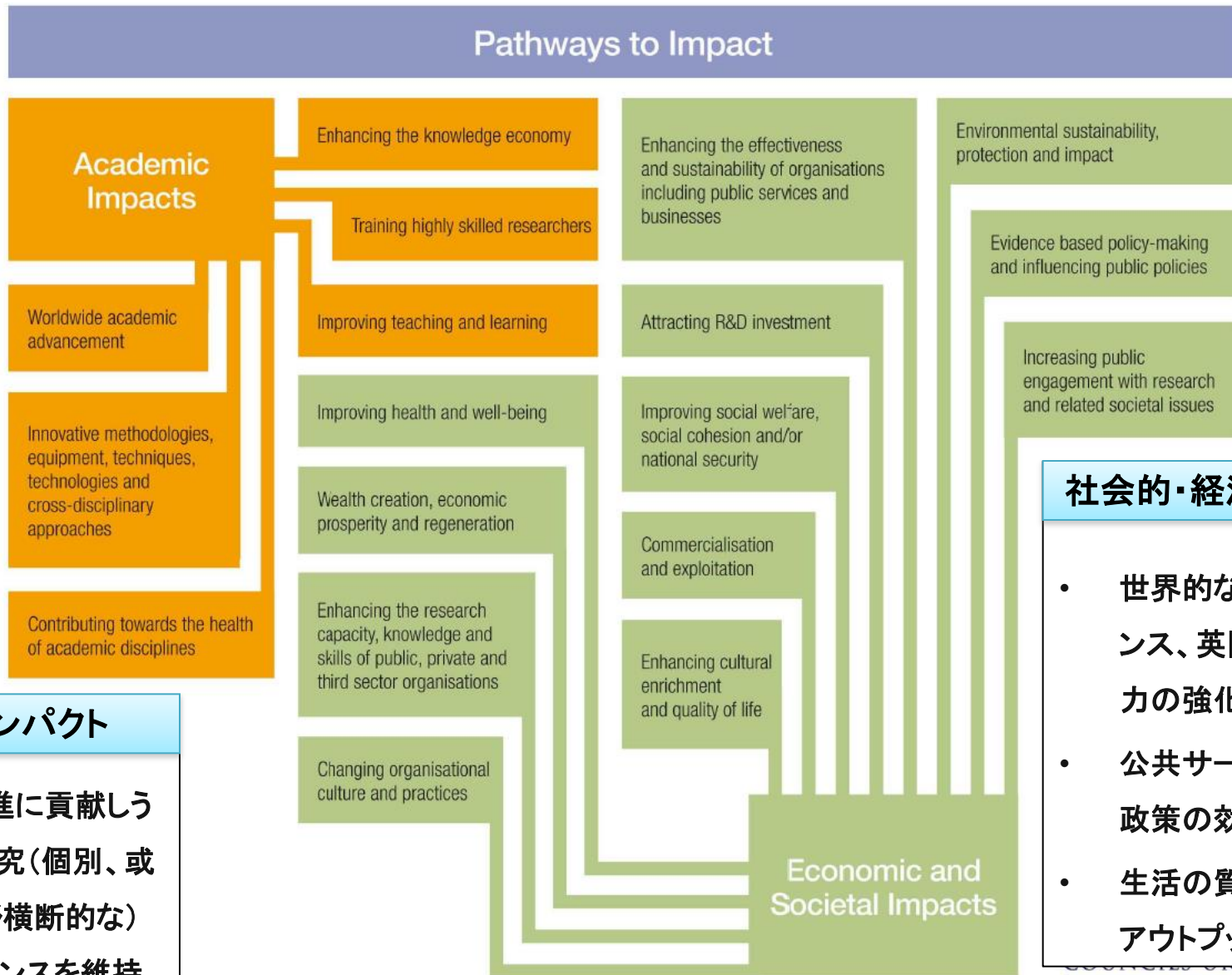
## パブリック・エンゲージメント

- 一般大衆と研究者との関わり





# 学術的インパクト、社会的・経済的インパクト



## 学術的インパクト

- 学術の前進に貢献するような研究(個別、或いは、分野横断的)のエクセレンスを維持

## 社会的・経済的インパクト

- 世界的な経済パフォーマンス、英国の経済的競争力の強化
- 公共サービスおよび公共政策の効率性の上昇
- 生活の質、健康、創造的アウトプットの向上



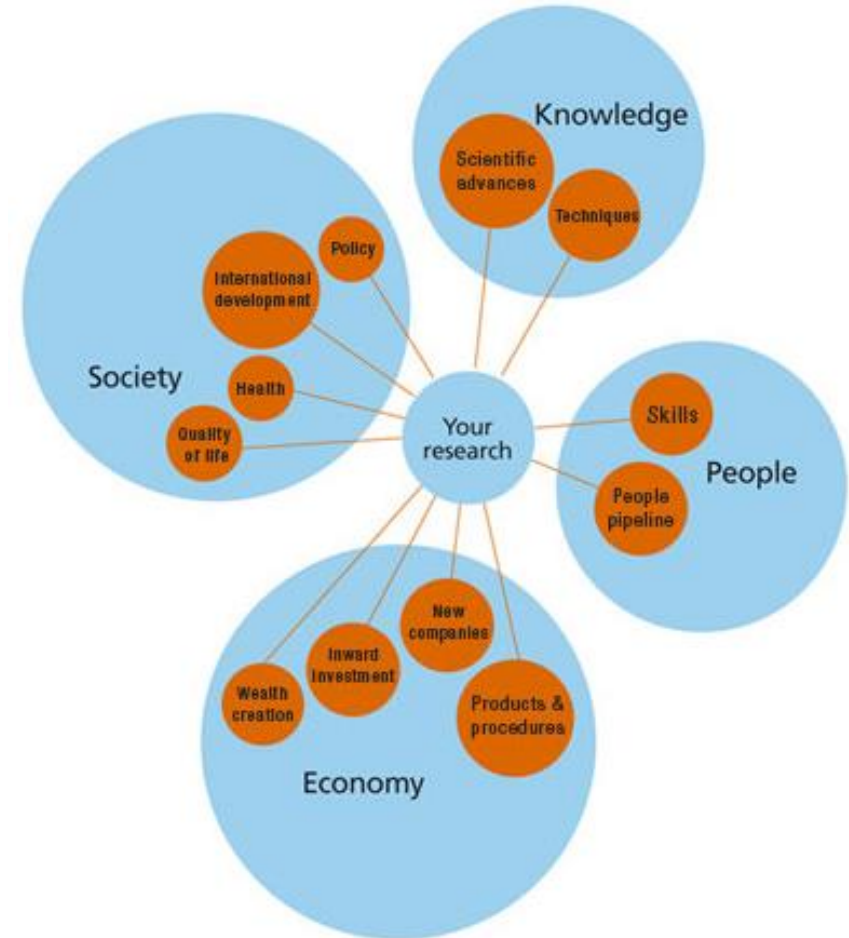
# EPSRCにおけるPathways to Impact

## インパクトの4領域

- 研究プロポーザルは、図表に示された全領域を網羅している必要あり
- Pathways to Impactを推進するため、研究実施期間中に達成する点を明記
- 研究プロポーザルに特定の、想定されるインパクトを列挙



- 学術的インパクトのPathwaysについての記述も重視



# 研究会議の評価システム（参考例）

## EPSRCの場合

### 社会的・経済的インパクト

- 研究・トレーニングが社会経済（経済競争力の強化、生活の質の向上等）にもたらしたインパクトの程度
- 国民の関与と理解が進んだ程度

### エクセレンス／能力

- 戦略的に重要とみなされる研究領域において国際的なエクセレンスを維持している程度

### リーダーシップ

- 現在および将来において、クオリティの高いリーダーがセクター（アカデミア、産業界等）を問わず特定・支援される程度

サブ基準

サブ基準

サブ基準

- 文化的、商業的、技術的な進歩を促すような、研究基盤とユーザー（政策立案者を含む）間の知識のやり取りの程度
- 異なるセクターを行き来する研究者の流動性の程度
- 英国の学术界とユーザー間の関係の程度 etc...